

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U) (11)実用新案登録番号
実用新案登録第3081578号
(U3081578)

(45)発行日 平成13年11月9日(2001.11.9)

(24)登録日 平成13年8月22日(2001.8.22)

(51)Int.CI⁷

識別記号

F I

A 6 1 B 17/32

310

A 6 1 B 17/32

310

評価書の請求 有 請求項の数 10 L (全 4 数)

(21)出願番号 実願2001 - 2767(U2001 - 2767)

(73)実用新案権者 399019205

松田医科株式会社

(22)出願日 平成13年5月7日(2001.5.7)

東京都千代田区外神田2丁目17番2号

(72)考案者 小関智明

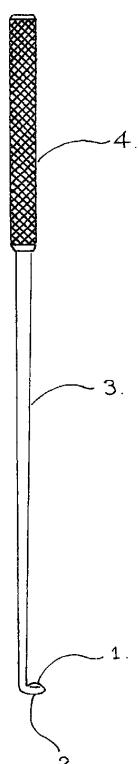
東京都豊島区駒込7丁目7番3号

(54)【発明の名称】 黄勒帶ナイフ

(57)【要約】

【課題】黄勒帶を確実に捕らえ、他の組織を傷つけず、良い視野を確保できる黄勒帶切開専用ナイフを提供する。

【解決手段】先端を急角度に曲げ、上面を刃面とし、下面を丸みを帯びた形状とする。



1

2

【実用新案登録請求の範囲】

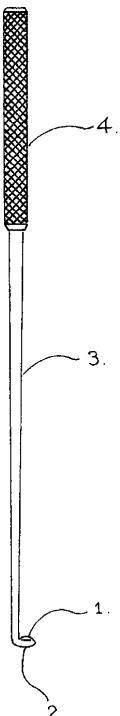
【請求項1】脊椎内視鏡手術の際に用いる黄靭帯を切開するナイフであり、黄靭帯の幅分だけ先端が急角度に曲がっており、内側に向いた山の部分に刃が立っており、外側に向いた背の部分は他の組織を傷つけないよう丸みを持たせた形状となっていることを特徴とする黄靭帯ナイフ。

【図面の簡単な説明】

【図1】黄靭帯ナイフの外観図である。

【符号の説明】

- | | |
|---|-----------|
| 1 | 刃面 |
| 2 | 丸みを持たせた部分 |
| 3 | シャフト |
| 4 | グリップ |

【図1】

【考案の詳細な説明】**【0001】****【考案の属する技術分野】**

本考案は脊椎内視鏡手術の際用いる黄靭帯を切開するナイフに関するものである。

【0002】**【従来の技術】**

脊椎内視鏡手術では従来黄靭帯を切開する際、ケリソンと呼ばれる嘴のついた鉗子で食いちぎるか、メスにより切っていた。

【0003】**【考案が解決しようとする課題】**

ケリソンは本来骨を削る器具であるため靭帯の切開には適していない。靭帯は弾性が強いため、ケリソンの刃が滑って靭帯が逃げてしまう。メスを使用する場合、黄靭帯の奥には硬膜や神経、血管等があり、これらを傷つけると重篤な障害を引き起こす可能性がある。またケリソン、メスいずれも、切ろうとする対象が手の陰に入り視野が確保しにくい。

【0004】**【課題を解決するための手段】**

黄靭帯の幅分だけ先端が急角度に曲がっており、内側に向いた山の部分に刃が立っており、外側に向いた背の部分は他の組織を傷つけないよう丸みを持たせた形状となっている黄靭帯切開専用のナイフの設計とした。使用する際は黄靭帯を刃の上に乗せ、手前に引くことによって切開する。

【0005】**【考案の実施の形態】**

図1は、黄靭帯ナイフの外観を例示している。シャフト3の先端は直角に曲がっており、上面はややカーブした刃面1となっている。下面は丸みを持たせた形状2となっており、他の組織を傷つけない。手元側グリップ4は滑り止めのロレット加工をしてある。材質はステンレスSUS304、SUS420J2、SUS330等が適している。

【0006】**【考案の効果】**

以上説明したように本考案は脊椎内視鏡手術の際、黄靭帯を切開する専用のナイフを提供するものであり、確実に黄靭帯を捕らえ、他の組織への侵襲がない。また刃が上に向いているため、切開部分を視認できる。

专利名称(译)	黄韧带刀		
公开(公告)号	JP3081578U	公开(公告)日	2001-11-09
申请号	JP2001002767U	申请日	2001-05-07
[标]申请(专利权)人(译)	松田医药有限公司		
申请(专利权)人(译)	松田医药有限公司		
当前申请(专利权)人(译)	松田医药有限公司		
[标]发明人	小関智明		
发明人	小関智明		
IPC分类号	A61B17/32		
FI分类号	A61B17/32.310		
外部链接	Espacenet		

摘要(译)

要解决的问题：提供黄韧带切口专用刀，可以牢固地捕获黄韧带，不会损伤其他组织，并可以确保良好的视野。解决方案：尖端弯曲成锐角，上表面是刀片表面，下表面是圆形的。

